

小平西地区地域ネットワーク

瀧口 優・西方 規恵・午頭 淳子・森山 千賀子・井原 哲人・
金田 利子*・草野 篤子**・奈良 勝行***・宮本 美子****・吉村 季織*****

活動実績の概要

はじめに

「小平西地区地域ネットワーク」（以下「西ネット」）ができたのは2012年3月である。それから9年が経過し、この4月から10年目に入った。「顔と顔の見える地域づくり」をテーマに、地域のネットワークづくりに取り組んできたが、どれだけ地域づくりが進んだのだろうか。

2020年度は冒頭から新型コロナウイルスの影響によって、地域における様々な取り組みが制限を受けてきた。3月に延期した地域懇談会は、6月になっても開催の目途がたたず、再延期となってしまった。各ブロックにおいても集まりを持つことができず、かろうじてオンラインでつながるとい程度の接触となった。それでも大学の世話人会や地域の世話会等は予定に沿ってオンラインで開催し、少しずつその幅を広げてきた。

一方、地域の居場所として位置づいてきたコミュニティ・サロンの「さつき」や「きよか」が家主さんの都合で継続できないということになり、新しい場所をさがさなければならなくなった。また地域センター等の公的な施設を使って居場所づくりをすすめてきた「カフェ・中島」（中島地域センター）もコロナ禍によって集まりをもつことができずにいるのが現状である。

なお小川公民館にて行ってきた中学生勉強会「分った会」は9月より感染対策を行いながら再開し、1月の緊急事態宣言で夜が使えない時は日曜日に行うなどして2月の高校入試対策を行ってきた。結果として中学校3年生8名が全て希望の

高校に合格することができた。

1. この1年を振り返って

(1) 経過

<2020年>

- ・ 4月14日（火）大学世話人会
- ・ 5月12日（火）地域世話人会（延期）
- ・ 5月19日（火）大学世話人会
- ・ 6月9日（火）地域懇談会（延期）
- ・ 6月9日（火）「小平西のきずな」34号発行
- ・ 7月7日（火）地域世話人会（オンライン）
- ・ 7月21日（火）大学世話人会
- ・ 9月1日（火）大学世話人会（オンライン）
- ・ 9月15日（火）地域世話人会（オンライン）
- ・ 9月29日（火）地域懇談会（オンライン）
- ・ 9月29日（火）「小平西のきずな」35号発行
- ・ 10月13日（火）大学世話人会（オンライン）
- ・ 11月10日（火）地域世話人会（オンライン）
- ・ 11月24日（火）大学世話人会（オンライン）
- ・ 12月8日（火）大学世話人会（オンライン）
- ・ 12月18日（金）地域懇談会（オンライン）
- ・ 12月18日（金）「小平西のきずな」36号発行

<2021年>

- ・ 1月12日（火）大学世話人会（オンライン）
- ・ 2月2日（火）地域世話人会（オンライン）
- ・ 2月16日（火）大学世話人会（オンライン）
- ・ 3月6日（土）地域懇談会（オンライン）
- ・ 3月6日（土）「小平西のきずな」37号発行
- ・ 3月9日（火）大学世話人会（オンライン）

(2) 総括

この1年間はコロナ禍の中での活動であり、とりわけ顔と顔の見える取り組みは最も敬遠しなけ

*、*** 嘱託研究員

** 客員研究員 白梅学園大学名誉教授

**** 嘱託研究員 子ども学部非常勤講師

ればならず、本来の目的を達成することは極めて難しいものであった。その中でつながりを維持するための情報紙を予定通り4号発行してきた点は評価できる。また懇談会や世話人会をオンラインに切り替え、顔と顔をつないできたことも意味がある。

一方、「はじめに」でも触れたように、居場所としてのコミュニティ・サロンがコロナ禍だけでなく、持ち主の都合ということで使えなくなってしまったことは、今後の課題として考えなければならない。行政と連携して居場所の提供が可能になるように働きかける必要がある。

2. 課題と展望

コロナウイルス禍という世界的な脅威の中で、地域をつなぐという課題は極めて困難なものである。大学内においても日常的な活動に制限があり、地域に出て行くことも難しい中で1年であった。

その中でいち早くオンラインでのつながりをつくるために地域の世話人との会議を実施し、地域の状況を把握することができた。9月に始めて行ったオンラインの地域懇談会において、今まで全く参加されてなかった薬局の方とつながり、薬局が地域づくりの意識を持っていることも見えてきた。

9月の懇談会は「ZOOM 茶話会：コロナ禍をどう過ごしていますか」として地域の様子を交流し、12月の懇談会では「地域包括から見えてくる地域の現状」として小林美穂小川ホーム施設長に話をして頂き、コロナ禍で施設がどのような状況にあるのかを含めて学ばせてもらった。3月は「小平市地域保健福祉計画って何か？」として小平市健康福祉部生活支援課計画調整担当係長溝口亮一氏から話をしていただいた。

第一ブロック（小川西町・栄町）では、地域の良いところ、良いことを発信しようとニュースづくりに取り組み、2021年度ははじめに発行することになった。コロナ禍で地域全体の活気が無くなって

いる中で、何とか盛り上げようという企画である。地域の「良いこと・良いところ」を取り上げることによって、つながってみようという雰囲気を作り出すことができる。それを広げていこうという試みである。

コミュニティ・サロンの「さつき」、「きよか」そして「西の風」など、ちょっと中断しているが、コロナ禍が解消した時には新たな取り組みを始める準備をしておかなければならない。

中学生勉強会「分った会」は、学校の授業について行けない子ども、家庭的に支援が必要な子どもたちに学習の場を保障するというでスタートした。子どもたちは西ネット地域を基本として集まってきているが、一部隣接の中学校や小学校からも参加している。保護者からの要望も強く、今後も継続して取り組む必要があるが、もっと地域の支援が得られるようなシステムを作っていく必要がある。現在は小平市教育委員会の後援と小川公民館の全面的な支援を得て取り組んでいるが、学生の参加も拡大したい。

なお10年間の区切りとして年度末には何らかのまとめを行いたいと考えている。